

## 渋沢についての小説

## 関わりのあった人々についての本

<p>『雄気堂々』上下 城山三郎／著 新潮社（F1シロ） 豪農の家に生まれ、18歳で結婚した妻千代と死別するまでの半生を描く。霞会館福祉事業委員会より拡大写本（大活字本）が全6冊あり。</p>	<p>『プリンス昭武の欧州紀行—慶応3年パリ万博使節—』 宮永孝／著 山川出版社（210.593） 徳川斉昭の子で慶喜の弟昭武が1867年14歳で慶喜の名代として約1年半ヨーロッパを巡り文化・知識を得た際の記録。渋沢も随行した。</p>	<p>『大隈重信—民意と統治の相克—』 真辺将之／著 中央公論新社（281オ） 佐賀藩の武士の生まれ。新政府で要職にはついていなかったが、英国公使パークスとの交渉で認められ道が開かれた。幾多の功績を知れる伝記。</p>	<p>『明治を食いつくした男 大倉喜八郎』 岡田和裕／著 産経新聞出版（281オ） 渋沢栄一の生涯の友であり、様々な事業も共に携わった大倉喜八郎。越後国から江戸へ出て貿易業から財閥を成す。略年譜あり、伝記。</p>
<p>『小説渋沢栄一』上下 津本陽／著 日本放送出版協会（F1ツモ） 幼少期から晩年までの出来事を丁寧になぞった評伝のような小説。多くの業績を知ることができる。下巻に略年譜あり。</p>	<p>『渋沢栄一と勝海舟—幕末・明治がわかる!慶喜をめぐる二人の暗闘—』 安藤優一郎／著 朝日新聞出版（281シ） 家茂の代から幕臣の勝と慶喜に仕える渋沢。維新後も徳川家を支えるがその行動は対照的だった。</p>	<p>『徳川斉昭—不確実な時代に生きて—』 永井博／著 山川出版社（281ト） 攘夷の巨魁として知られる斉昭。水戸徳川家の成立から、才能、学識、挑戦的精神を持った人物像に迫る伝記。</p>	<p>『徳川慶喜』 家近良樹／著 吉川弘文館（281ト） 渋沢の主君慶喜は両親より朝廷と幕府双方の血を継ぎ、11歳で水戸藩主、29歳で15代将軍となり、大政奉還を成し遂げた。余生についても知れる伝記。</p>
<p>『福沢諭吉と渋沢栄一』 城島明彦／著 青春出版社（281フ） 西洋文化を受け入れ近代化を啓蒙した福沢諭吉は反論語派だった。近代化を開いた2人を比較して知ることができる。対比年譜あり。</p>	<p>『図説明治の企業家』 宮本又郎／編著 河出書房新社（332.8） 渋沢栄一をはじめ明治といった48名（3財閥含む）の企業家について知ることができる。企業家年表あり。</p>	<p>『五代友厚—蒼海を越えた異端児—』 高橋直樹／著 潮出版社（F1タカ） 「東の渋沢、西の五代」として並び評された五代友厚を中心に近代日本経済の基礎の構築の様子を知れる小説。</p>	<p>『暁の群像—豪商岩崎弥太郎の生涯—』上下 南條範夫／著 文藝春秋（F1ナン） 渋沢栄一とは対照的であり二人は相いれなかったが、近代的な資本主義発展を支えた1人である実業家岩崎弥太郎についての小説。</p>

## 渋沢栄一とその時代



2021年の大河ドラマの主演であり、2024年新一万円札の顔になる予定の渋沢栄一。その人生、信条、業績、関わりのあった人々等について知ることができる本を集めてみました。より渋沢を知るには『渋沢栄一伝記資料』が詳しいですが、こちらは古い資料のため渋沢栄一記念館HP (<https://www.shibusawa.or.jp/>) で公開されているデジタル版（全68巻中57巻まで）を確認してください。

（ ）内は請求記号です。

多摩市立図書館

2021.3 上旬

渋沢栄一関連の本

<p>『富と幸せを生む知恵 —ドラッカーも心酔した名実 業家の信条「青淵百話」—』 渋沢栄一／著 実業之日本社／編 実業之日本社（159）</p> <p>『青淵百話』から「富 と幸せを生む知恵」の 談話を中心に再構成、 語りは現代語訳。</p>	<p>『渋沢栄一日記』 『日記に読む近代日本 2』より 千葉功／編 吉川弘文館（210.6）</p> <p>人生に何度か日記を記し ていた。通年した年代は 限られるが日記から読み 取った精力的な人物像、 時代性についての解説を 知ることができる。</p>	<p><sup>あまよがたり</sup> 『雨夜譚』 渋沢栄一／述 長幸男／校注 岩波書店（281シ）</p> <p>『青淵の竜』 茶屋二郎／著 廣済堂あかつき（F1 升）</p> <p>『雨夜譚』は自伝。この本を 基に小説化したのが『青淵 の竜』。青年期から国立銀行 頭取までを知れる。</p>	<p><sup>あまよがたりよぶん</sup> 『雨夜譚余聞』 渋沢栄一／述 小学館（281シ）</p> <p>1～5章は『雨夜譚』が底 本、6～10章は『青淵回顧 録』より抄録。1冊で渋沢 栄一の人生を知ることが できる回顧録。字が大きく て読みやすい。</p>	<p>『澁澤栄一』 渋沢秀雄／著 時事通信出版局（281シ）</p> <p>『父渋沢栄一 新版』 渋沢秀雄／著 実業之日本社（281シ）</p> <p>子渋沢秀雄が記した伝 記。家族のエピソードを 中心に人となりを知れ る。写真多数。</p>	<p>『渋沢栄一 —社会企業家の先駆者—』 島田昌和／著 岩波書店（281シ）</p> <p>いかにして実業家として 成功したのか、社会・公 共事業への支援を通し人 材育成にも力を注いだ側 面も知れる評伝。</p>
<p>『原典でよむ渋沢栄一 のメッセージ』 渋沢栄一／[著] 島田昌和／編 岩波書店（281シ）</p> <p>様々な場所で行ったスピ ーチの抄録を解説ととも に知ることができる。</p>	<p>『渋沢栄一人間の礎』 童門冬二／著 集英社（281シ）</p> <p>豪農で商売も行ってい た家の長男として生ま れ、「論語と算盤の一致」 を理念とするまでの半 生を物語調で知れる評 伝。わかりやすい。</p>	<p>『天才渋沢栄一—明治日本を 創った逆境に強い男と慶喜—』 星亮一／著 さくら舎（281シ）</p> <p>一橋家に仕官した頃から、 大蔵省退官の33歳まで に重点をおいた伝記。慶喜 の伝記執筆に力を注いだ 渋沢の心の内も知れる。</p>	<p>『日本の資本主義を作っ た男 渋沢栄一』 宝島社（281シ）</p> <p>その人生や人とのつなが り、関わった500ともい われる事業が、現代にどの ように繋がっているのか をコンパクトに知れる。</p>	<p>『渋沢栄一』 『幕末・明治偉人たちの 「定年後」』より 河合敦／著 WAVE 出版（281）</p> <p>77歳の引退以降、福祉 活動や明治神宮造営、日 米親善活動などに携わ っていたことが知れる。</p>	<p>『渋沢栄一国富論 —実業と公益—』 渋沢栄一／著 国書刊行会編集部／現代語訳 国書刊行会（304シ）</p> <p>『青淵百話』から公利 公益談話を中心に再構 成、語り口は現代語 訳。略年譜あり。</p>
<p>『渋沢栄一—日本のインフラ を創った民間経済の巨人—』 木村昌人／著 筑摩書房（335.13）</p> <p>立憲君主制の下で官尊民卑 の打破と民主主義の平等・ 参画・議論の自由、つま り、道徳と経済の一致に尽 くした人生を知れる。</p>	<p>『図解渋沢栄一と 「論語と算盤」』 齋藤孝／著 フォレスト出版（335.13）</p> <p>論語を経済活動に活用 した渋沢栄一。人生や 「論語と算盤」が図等 で分かりやすく書かれ ている。</p>	<p>『経済と道徳』 渋沢栄一／著 徳間書店（335.15）</p> <p>約500もの事業を起こし た渋沢が何を考えて行っ ていたのかについて口述 されている。死後7年の 1938年に出版された図 書の再刊。</p>	<p><sup>せいえんろんそう</sup> 『渋沢栄一「青淵論叢」 —道徳経済合一説—』 渋沢栄一／[述] 鹿島茂／編訳 講談社（335.15）</p> <p>政治観、倫理観、経済観等 について述べた渋沢栄一 の談話集。原文と現代語訳 が併載されている。</p>	<p>『お金から見た幕末維新 —財政破綻と円の誕生—』 渡辺房男／[著] 祥伝社（337.21）</p> <p>新政府はお金がなく、西 国・東国や藩では異なる 札が流通する中、国際基 準に沿った「円」を発行 するまでの試行錯誤。</p>	<p>『蚕にみる明治維新 —渋沢栄一と養蚕教師—』 鈴木芳行／著 吉川弘文館（632.1）</p> <p>養蚕と製藍を兼営する家 で生まれた渋沢。生系が 明治期輸出品第一位とな り殖産興業の模範となっ た秘密を探る。</p>